

## P1-001

## 音楽胎教時における胎動に関する一考察

岡村 弘、本野 洋子

東京福祉大学 保育児童学部

1. はじめに 胎動に関しては多くの研究があるが、母親の音楽胎教と胎動の関連については、本発表者も国際幼児教育学会第38回大会（於：国立臺北教育大學）において「音楽胎教時における胎動について」（岡村、本野、桐山,2017）と題して発表している。その時の発表は、2012年度から7年間科研費の補助を受けて行ってきた研究であったが、本発表は2017年度から実施している研究で、異なる観点から胎動に関する知見を得ようと試みた。

2. 本研究の目的 胎児の睡眠周期が40分と言われているが、音楽胎教をすることによって、この睡眠周期に変化が生じることを明らかにしようとした。特に、母親の生で聴かせる歌声や生のオルゴール音への反応と、CDで聴かせる音楽との間に差異はあるのか、あるとすれば、胎児はどのように感じ取っていると考えられるかを、母親の感じる胎動から推察しようと試みた。

3. 方法 (1) 研究協力者 A産婦人科医院の協力のもと開催された音楽胎教室に参加した母親のうち、本研究では、胎教室参加の日から出産の日まで胎動の記録をしたという回答が得られた妊婦10名を分析対象とした。(2) 音楽胎教室のプログラム内容 本研究の目的、音楽胎教の方法を伝え、(1) 毎日1回は母親が自分の好きな童謡などを歌ってもらうこと、(2) オルゴールを貸与し聴いてもらうこと、(3) 好きな曲のCDがあればCDを聴いてもらうこと、等を伝えた。さらに毎日音楽胎教時の胎動の有無を記録してもらった。

4. 結果と考察 母の声を聴いたときの胎動について、出産60日までの10日間がもっとも変化なしが少なく、10日毎の数では出産が近づくにつれて変化なしが多くなっている。一方胎動があると感じた母親も1名から2名ずつ増えている。生オルゴールでは胎動があると感じた母親が、50日前の10日間以降胎動に変化なしと答えた母親の2倍以上になっている。CDでは、回答数が少ないが、変化なしと答えた母親が胎動を感じている母親の2倍以上になった。また、胎教を行った時間帯と、胎動に関しては、母親の歌声では、入浴中が最も胎動が多く感じられ、全体的には午後からの胎教時に胎動が多く感じられる傾向があった。生オルゴールでは、昼食後以降の時間帯においても、胎動があることが、変化なしより多く、就寝前では圧倒的に多くの母親が胎動を感じていた。これらの結果の考察について、学会の大会で発表したいと考えている。

## P1-002

## 妊娠中期の妊婦のストレス対処特性とその関連要因の検討—支援者の続柄との関連に着目して—

木村 めぐみ<sup>1)</sup>、岩塚 智美<sup>1)</sup>、柳瀬 幸子<sup>1)</sup>、井倉 一政<sup>2)</sup>、宮崎 つた子<sup>3)</sup>医療法人碧会 ヤナセクリニック<sup>1)</sup>、  
岐阜協立大学 看護学部<sup>2)</sup>、  
三重県立看護大学 看護学部<sup>3)</sup>

## 【目的】

妊娠期からの有効な支援を検討するために、妊娠中期の妊婦のストレス対処特性とその関連する要因を検討する。

## 【方法】

2019年8月から12月に、妊娠中期の当院受診者に研究の趣旨を説明し、同意を得られた妊婦を対象とした。調査項目は、妊娠届出書アンケート、妊娠中期の相談者とコーピング特性簡易評価尺度（以下、BSCP）で、BSCPは開発者の許可を得て使用した。解析は、調査項目の記述統計、t検定、相関係数を算出した。なお、本研究は所属機関の承認を得て行った。

## 【結果】

外国人を除く145名から回答が得られた。妊娠中期の相談者は、夫95.2%、実母88.3%、実父54.5%、義母52.4%、義父38.6%で、それ(夫や実父母、義父母)以外の人94.5%であった。妊娠中期の相談者とBSCPのt検定では、「それ以外の人に相談」に「はい」と答えた妊婦は「積極的問題解決」が有意に高かった。「夫に相談」「義母に相談」「義父に相談」「それ以外の人に相談」に「はい」と答えた妊婦は「解決のための相談」が有意に高く、「義父に相談」に「いいえ」と答えた妊婦は「他者を巻き込んだ情動発散」が有意に高かった。妊娠届出時の属性とBSCPのt検定では、「妊娠が分かった時予想外で戸惑った」に「はい」と答えた妊婦は「積極的問題解決」が有意に高かった。「特定妊婦」は「視点の転換」が有意に低かった。妊娠中期の相談者とBSCPの相関では、夫、実父母との相関はみられなかったが、「義父母に相談」と「解決のための相談」で負の相関、「他者を巻き込んだ情動発散」で正の相関がみられた。

## 【考察】

妊娠・出産・子育て期の途切れない支援のためには、妊娠中から支援者の有無や個々に応じた支援方法を検討していく必要がある。「妊娠が分かった時の気持ち」や「相談相手」、「特定妊婦」とBSCPには関連があることが推察された。妊娠中の主たる相談者は夫や実母であるが、それ以外のサポート状況を把握しておくことは重要であり、相談相手との関係性によって、使用するコーピング特性が異なる可能性が示唆された。また、妊娠中期には「解決のための相談」や「他者を巻き込んだ情動発散」と「義父母に相談」との相関がみられた。妊娠により家族関係に変化がみられることが多く、妊娠期間中を通して、支援者の有無や相談内容、相談の程度等を丁寧に聞き取る必要があり、対象者のコーピング特性を把握し、個々に応じた支援の必要性があると考えた。